

答えることが言語使用になるテスト

関西大学 今井裕之
himai@kansai-u.ac.jp

最近の研修会で学んだこと

- 学習者と話す教師の役割として「リキャスト(会話中 生徒のエラーを修正して応答することで間違いに気づかせる)」が紹介されていた。S: "I went school." T: "Oh, you went to school."
- TOEICの新傾向問題には、文章や発言の直接の意味ではなく「暗示すること」を推測する問題が導入されていた(言葉の理解=言外の意味を含めての解釈)

残念に思ったこと。

- 「テストを何回受けても テスト問題やるだけでは英語力は伸びません」と断言されたこと。それはテスト問題に問題があるということ
- 「リキャスト」は技術的に難しく、学習者は自身のエラーに気づきにくい、と実感したこと。相手の発話の意味を推測しながら適切な文法修正をするトレーニングが大切

スタート地点

- テストは言語知識確認ではなく「言語使用」と考える。
- 文法知識のテストではなく、文法知識に沿った「言語使用」ができることの確認と考える。
- 「言語活動」には「USE= when, why and to whom」=「状況、目的、宛先」のある言語使用が必要。

スピーキングの発話意図 感情

- Can you play soccer? Why do you ask

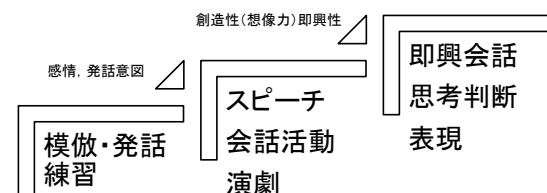
What time do you go to school?

Can you play soccer?

家を出る時、学校に着く時?

16/08/03

言語活動のステップとギャップ



今井 「中高生のスピーキングパフォーマンス評価 パフォーマンスを学ぶに」英語教育公開シンポジウム「これからの英語教育ーポジティブに可能性を探るー」神田外語大学 講演
16/08/03

STEP 1



今井, 吉田
『 中高生のための
英語スピーキングテスト』
東京: 教育出版

Describe the room as much as you can.

16/08/03

ひとつめの壁: 感情, 意図を伴う発話

- 言語活動によって when, why, to whom を意識した言語産出 インタラクションの力を養う
= 意味を理解し, 感情や意図を伴う発話ができること
- 事例紹介: 絵の描写から「考えて話す活動」へ

16/08/03

STEP 2



What kind of person lives in this room?

16/08/03

ふたつめの壁: 即興性を養う

- “YES, AND” approach
- Be “here and now.” Don’t think ahead.
- Give your partner a good time.

先読みではなく 相手を受け入れる
事例紹介: “Welcome to my room”

16/08/03

STEP 3 Welcome to my room

You are inviting your friend to your room for the first time and show him/her around.

Partners give comments or ask questions about the room and keep the conversation going.

B: “Wow, look at the poster! You like ishikori Kei?”

A: “What are you talking about? There’s no such poster.” NG

A: “Yes. I like tennis. I play soccer too. Do you?”

Yes And = Do not negate, build on it.

Imai, Fujiwara & Sannomiya (2014) Improvisation in classroom.
Workshop in KUCF Reflective Practice Conference. Iにもとづく

16/08/03



学習者の成長をどう捉えるか

A head taller 他者と自分を関連づけて少しだけ背伸びする

Completive 他者の発話を肯定的に受けとめて創造的なやりとりをつくる

Becoming 児童・生徒の「エラー」を「出来つつある」証し 何かになりつつある存在として

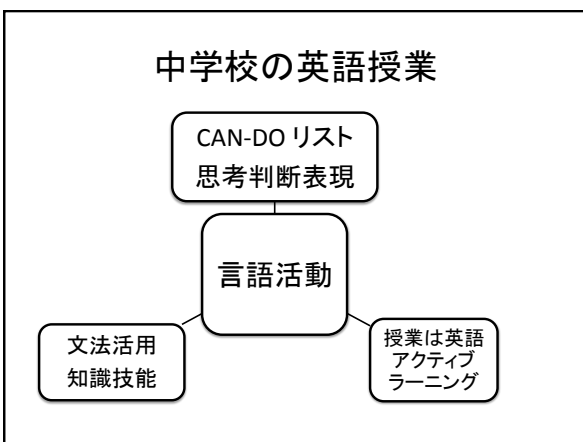
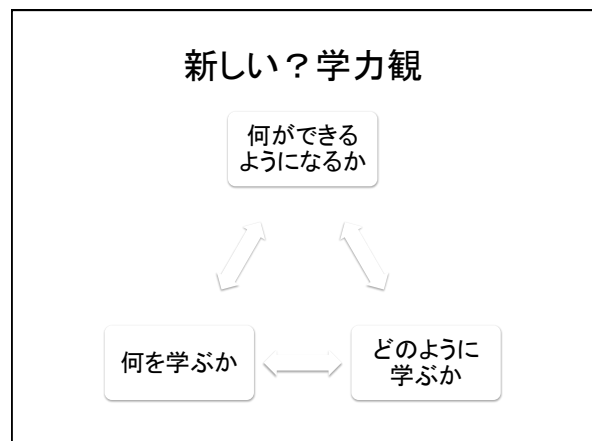
次期学習指導要領から

英語授業時間比率が小中1:2に

年	義務教育下での総英語授業時間数
2002-2010	367 (小52, 中315)
2011-2019	490 (小70, 中420)
2020-	630 (小3,4=70, 小5,6=140, 中=420) 小: 中 = 1 : 2

学習指導要領の到達目標: 中学校

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙、表現、文法を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことを用いた実際のコミュニケーションの場において活用できる基本的な技能を身につけるようにする。	外国語でコミュニケーションを行う目的、場面、状況等に応じて、日常的、社会的で具体的な話題について理解したり表現したり、簡単な情報や考えなどを交換するなどして伝えあつたりすることができる力を養う	外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、聞き手、読み手、話して、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う

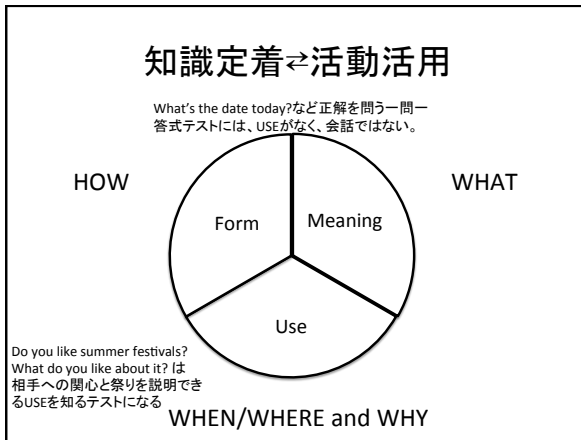


どのように学ぶか

- 「アクティブ・ラーニング」には3つの視点
- 主体的な学び
- 対話的な学び
- 深い学び

「主体的」は生徒任せではない
 「対話的」はペアワークでのドリルではない
 「学びの深さ」は、授業の目的によるが、主体的、対話的学習の成果として=気づき、発見学習

16/08/03



USEのある指導とその評価へ

- 知識定着のために Meaningを「日本語訳」にして 単語や例文(Form)を 理解し 練習を繰り返す指導やテストの限界を自覚し 「誰に対する どのような状況での どんな意図を込めた発話か」を理解 使用することを促す言語活動は必要不可欠である
- インタビューテストでも 生徒が多様に応答できる質問をし 生徒の応答を「YES AND」で受け止め応じる姿勢がテストに求められる